

【資料2】

平成21年度 伊万里市立青嶺中学校 学校評価結果

1 学校教育目標
望ましい人間関係を育み、自ら考え行動する生徒の育成を図る。



2 学校経営ビジョン
<p><学校経営ビジョン> あらゆる教育活動を通して生徒同士、教師と生徒の心のふれあいを深め、生徒と共に信頼される学校を築きあげること努める。～生徒一人一人が大切にされる学校～</p> <p><めざす生徒像> ① 自ら学び、よく考えて行動する生徒 ② 生命を尊重し、自分や他人を大切にしている生徒 ③ 目標を持ち、切磋琢磨する生徒 ④ 礼儀正しく、心豊かな生徒 ⑤ 健康で明るい生徒</p> <p><青嶺中スローガン> 「さわやかせいれい」 さ:サツと速い動き わ:若さ、元気 や:やる気 か:感謝の心 せい:清潔 れい:礼儀</p>



3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>①個性を伸ばし、一人一人の希望する進路確保をめざした学力向上</p> <p>②豊かな心を育てる生徒指導の充実</p> <p>③生命や人権を尊重する人権・同和教育の推進</p> <p>④家庭・地域との連携を図る開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑤特別支援教育の充実と社会生活能力の育成</p>	<p>○ 確かな学力の定着を目指すため、一人一人を生かすきめ細かな指導の研究や実践を行っていく。そのためのしっかりした体制づくりを行う。また、特に、授業研究会に一層力を入れていく。</p> <p>○ 豊かな心を育むため、その具体的な取り組みや道徳の授業の質の向上を図っていく。</p> <p>○ 不登校生徒のゼロをめざすとともに、支援を必要とする生徒への対応など、地域や保護者との連携を図りながら、職員の体制づくりを確立し、研修会の充実を図る。</p>



5 総括表					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策
学校運営	○教職員の資質の向上	教職員の資質の向上、服務規律の保持	□教職員の服務規律の保持を図り、不祥事を起こさない。	A 不祥事を起こさなかった。服務規律の保持については、職員会議、職員集会等で常に指導を行うことができた。	◇職員会議や職員集会を実施することに管理職が注意を喚起したり、指導・助言を行ったりする。
	○開かれた学校づくり	学校からの情報提供と学校開放	□「学校のことがよくわかる。」と思う保護者の割合を80%以上にする。	A 81.1%の保護者が「教育方針をわかりやすく伝えている。」と答えている。また、「たより等で学校のことがよくわかる。」と80.2%答えている。	◇毎月HPの更新と充実を図るとともに、毎月学校だより、育友会・保健・教育相談・図書館だよりを発行する。 ◇毎学期、フリー参観デーを設け、保護者、地域住民等の参加を促す。
教育活動	●学力向上	基礎・基本の定着	□3年生は、全員が希望する進路先へ進めるようにする。 □1、2年生は市共通テストで、どの教科(国・社・数・理・英)とも市平均を上回るようにする。	B 授業については、生徒は76%がわかると回答し、保護者は79%が学力向上に取り組んでいると回答しているが、授業の内容を理解しているかについては61%であった。	◇各教科、わかる喜び・達成感を実感できる指導内容・方法の工夫・改善を行い、授業の質の向上を図る。 ◇授業時数の確保とともに、年1回以上、全職員が研究授業を行う。
		表現力の育成	□いろいろな場面ではっきりと自分の意見や考えなどを発表できる生徒を80%以上にする。	B いろいろな場面ではっきりと自分の意見や考えが言えるかについては、生徒は65%、保護者は74%がいえると回答している。	◇スピーチや集会など、自己表現できる場の設定の工夫や内容や方法の改善を行う。 ◇各授業の中に表現活動の場を設定できるように指導の在り方を工夫・改善する。
	●心の教育	自分や他人を大切にしている豊かな心や仲間・人間関係づくりを推進する。	□全職員がすべての教育活動で思いやりのある人間関係づくりに努める	A 心の教育ができていと思うと答えた生徒は92.6%、保護者が85.3%であった。	◇平和集会・人権集会の充実 ◇年間計画にそった人権・同和教育の実践
	●健康・体づくり	☆食育等を通じた健康づくり	□朝食を85%の生徒が摂ってくるようにする。 □給食の残量を昨年度よりも減らす。	A 生徒は97%朝ご飯を食べている。保護者は98.9%食べさせてから送り出すと答えている。 年2回「もりもり運動週間」を設け残量調査を実施した。残量が減り、生徒の意識も少しずつ高まってきている。	◇家庭生活調査を行い、家庭への啓発や連携をして改善する。 ◇給食指導の充実と食に関する授業の実践。
	○生徒指導	生徒指導の充実	□元気でさわやかな生徒の育成を行う。 □自分で判断し、正しい行動を実践する生徒を育てる。	A 青嶺中スローガン「さわやか せいれい」、生徒は93%が理解し、保護者は78%が生徒指導に反映されていると回答している。 スローガンのもと規則正しい学校生活を送ることができている。	◇青嶺中スローガン「さわやか せいれい」の推進。 ◇学校生活を生徒が規則正しく、自主的活動できるように指導する。
		☆情報モラルの徹底	□携帯電話やパソコンの正しい使用ができ、犯罪の加害者や被害者にならない生徒を育てる。	A パソコンや携帯電話の正しい使い方については、生徒は81%が理解し、保護者は85%が豊かな心を育む指導がなされていると回答している。	◇サイバーセキュリティーに関する講話の実施や道徳の授業での判断力の育成を行う。 ◇保護者や地域との連携を図る。
	○教育相談	☆不登校の未然防止	□不登校及び不登校傾向の生徒や保健室等登校の生徒の数が、昨年度より下回るようにする。	B 3年生については、改善した。しかし、不登校及び不登校傾向の生徒や保健室等登校の生徒の数は、横ばい状態であった。	◇スクール・カウンセラーやソーシャル・スクール・ワーカーと連携し、生徒や保護者の悩みに的確に応える体制を作る。 ◇教育相談の充実を図る。
	○中1数の学習環境改善充実	中1数学の学力向上	□学習状況調査において、数学の各分野で県平均を上回る。	A 学習状況調査において、数学の各分野で県平均を上回ることができた。また、その後の各種テストにおいても確実に力をつけてきている。	◇個に応じた指導の研修を深める。 ◇単元の節毎に、定着度を検証し、個に応じた補充を行う。
○特別支援教育	特別支援教育の充実	□特別支援教育の体制について全職員が理解する。 □支援を必要とする生徒の支援計画を作成し、専門機関とも連携を取りながら、生徒個々の支援に当たる。	B 情報交換も適宜行いながら進めていった。担任の支援も必要であった。	◇毎月、特別支援教育委員会を実施するとともに、特別支援教育会議をもつ。	
その他	☆家庭教育力の向上	家庭学習の環境づくり	□テレビやゲームの時間を減らし、勉強や読書の時間を増やす。	C 家で勉強していると答えた生徒は44.4%であった。また、家で読書をしていると答えた生徒は50.4%であった。保護者は家庭での学習をしっかりとやっていると考えている人が75%であった。また、読書をしていると答えた保護者は、47.9%であった。	◇昨年度、育友会活動で取り組んだ内容を引き続き実施する。(定期テスト等の前1週間に家族でテレビを見る時間を減らすとする取組)



6 総合評価

生徒に対するアンケートでは、「学校には仲の良い友達がいる」98.5パーセント、「学校は楽しい」95.6%、「部活動は楽しい」95.6%、「先生の言うことや学校のきまりを守っている」92.6%となっている。保護者に対するアンケートでは、「安全や事故防止に努めている」87.4%、「命や人権の大切さなど、豊かな心を育む指導がなされている」85.3%、「職員は熱心に教えている」83.3%、「職員は、子どもの能力や努力を適切に評価している」83.3%、「教育方針をわかりやすく伝えている」81.1%、「たよりなどで、学校のことが良くわかっている」80.2%となっている。
生徒・保護者とも、全体的には好意的な評価となっている。



7 来年度の改善策
評価が低かった項目は、学校・職員に対するものでは、生徒からは「授業はおもしろい」61.2%、「先生方は相談しやすい」61.5%、保護者からは「気軽に相談できる雰囲気がある」64.6%であった。生徒本人に関するものでは、「家で勉強をしている」44.4%、「家で読書をしている」50.4%、「家でテレビやゲームの時間を減らしている」64.4%、「いろいろな場面ではっきりと自分の意見や考えをいえる」65.2%となっている。保護者は、「子どもは読書をしている」47.9%、「家で手伝いをしている」53.1%、「テレビやゲームの時間を減らしている」56.3%、「子どもは、授業の内容を理解している」61.1%、「元気よくあいさつをしている」65.6%、「子どもは、自分の意見や考えをはっきりと言える」73.7%となっている。
来年度は、学力向上(授業改善し、学力をつけさせる。生徒・保護者から相談しやすい環境を整える。家庭学習の充実。)、表現力の育成(自分の意見や考えをはっきり言えるようにする。)に重点をおく必要がある。

●は共通評価項目、○は独自評価項目

成果と課題

今年度は目標を達成することができた。
来年度も継続して行う。

毎月HPの更新することはできなかったが、たより等は十分に発行ができた。毎学期、フリー参観デーを実施することができた。
来年度も継続して行う。

さらに、きめ細かな指導や、個別指導を充実し、全職員で学力向上を推進していかなければならない。

自己表現できる場の設定の工夫と、表現のスキル学習等により、表現力を改善し、高めていかなければならない。

平和集会・人権集会は計画どおりに実施できた。また、人権・同和教育についても計画にそって実施できた。心の教育は、常に必要な事であり、あらゆる機会に実施していかなければならない。

さらに、残菜を減らしたい。

今後も、会合や、たより・ホームページ等により、さらにアピールし、推進していかなければならない。
今後自発的な活動も促進していく必要がある。

常に化する状況に対応し、油断せず地道に指導や、心の教育を行っていかなければならない。

スクール・カウンセラーやソーシャル・スクール・ワーカーと生徒・保護者との相談活動はできたが、登校にいたるまでにはならなかった。
不登校生徒・保護者に働きかけて、登校できるようにしていきたい。

個に応じた指導を行った結果、学力が向上した。
学力を向上させるための指導形態を工夫する。

ほぼ毎月会議を実施して共通理解と実践に努めた。
来年度もさらに全職員が学校全体のこととして取り組む必要がある。

定期テスト等の前1週間に家族でテレビを見る時間を減らそうとする取組は実施したが、十分な成果が上がっていない。
家庭学習の充実が今後の学力向上につながるので、来年度も工夫して取り組んでいく必要がある。

